真宗大谷派（東本願寺）天満別院

六字城

ROKUJIJO

2020/5/1
No.666

大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝

「大阪城　池の周りに咲くツツジ」（撮影者　西松　薫）

〈感染症に対する当別院の対応について〉

この度の政府の「緊急事態宣言」を受けて、別院では解除されるまでの間、左記の通り対応しております。
皆様のご理解・ご協力の程、よろしくお願い致します。

記

・法務参勤（月忌、年忌）について
先方へ連絡し参勤の有無を確認しております。

・墓地業務について（水、土、日）は墓地職員が、（月、火、木、金）は寺務所職員が対応しております。

・別院職員について　必要最低限の人数で対応しております。

〈ご本山「法要時」の宗派指針〉

4月17日付で「法要（葬儀・法事等）における新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けて」の宗派指針が左記の通り示されましたので、お知らせ致します。

記

① 法要前には必ず手洗い・手指の消毒を厳守ください。また、参列者にも同様に手洗い・手指の消毒を徹底いただきます。
② 常に咳エチケットを心掛け、勤行・読経の際にもマスクを着用し、また参列者にも同様にマスクの着用を徹底いただきます。
③ 感染リスクを減らすために、3つの「密」を避けてください。
④ 37.5度以上の発熱、体調不良の方は控えてください。
⑤ 新型コロナウイルスで亡くなられた方の通夜・葬儀等を執り行うにあたっては、国の方針を踏まえた上、医療機関や葬祭場とも連携をし、感染防止のための衛生に努めてください。
⑥ 日常的な自己管理を徹底し、感染者の媒介者とならないように留意ください。
⑦ 新型コロナウイルスへの対処法を正しく理解し実行することで、差別や風評被害が広がらないよう努めてください。

法要・行事予定

5月

12日	闡如上人御逮夜・常永代経　（14時）
13日	闡如上人御命日　兼日中　（8時）
16日	天満別院合唱団「みのり」（中止）
22日	常如上人御祥月御命日　（8時）
24日	正信偈書写の会（中止） 定例法話（中止） 沼田和隆師　（第15組大長寺住職） 講題「ただ念仏して弥陀に たすけられまいらすべし」
27日	宗祖聖人御逮夜　（14時）
28日	宗祖聖人御命日　兼日中　（8時）
30日	天満別院合唱団「みのり」（中止）

※　5月7日以降については、法務参勤の有無を確認させていただきます。

6月

5日	同朋の会　（14時）
12日	闡如上人御逮夜・常永代経　（14時）
13日	闡如上人御命日　兼日中　（8時）
18日	存如上人御祥月御命日　（8時）
20日	天満別院合唱団「みのり」　（14時） 指導 村上奈津子師（第13組超願寺住職）
24日	正信偈書写の会　（10時） 夏の御文法要　（13時30分） 多田孝圓師　（第7組圓乗寺住職）
27日	宗祖聖人御逮夜　（14時）
28日	宗祖聖人御命日　兼日中　（8時）

※　6月の予定につきましては、感染状況をみて判断いたします。

院議会議員の皆様 3年間ありがとうございました。

普通寺院では「総代会」がありますが、別院では「院議会」があります。輪番は別院の教化事業の立案に伴う予算、及び報告に伴う決算を審議していただく院議会の承認を得ることになっています。

この度、10名の方々が任期満了（3月31日付）を迎えました。門首後継者能慈院様ご夫妻をお迎えしての報恩講厳修をはじめ、色々とご指導・お世話を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

尚、来る6月の通常院議会までには、新しい議員さんを選定させていただく予定になっております。

今月の伝道掲示板

時間の使い方は
そのまま
命の使い方

－渡辺和子－

編集後記

コロナウイルスの感染拡大が止まらないなか、別院も対応としてテレワークになりました。昨今家族葬や小規模な法事が増えていく中で、コロナウイルスによって更に減少していくと思います。大切なのは残された私たちがどの様に死と向かい合っていくのかです。このことを機縁として仏さまの教えに出会い、どんなことがあっても生き抜く力を聞き続けていきましょう。

（I）

寺町という歴史ある地域に
根ざした老舗葬儀社

（株）天満花重

〒530-0041
大阪市北区天神橋 3-4-6
電話　(06)-6351-3875
FAX　(06)-6351-6260

株式会社太田石材店

本　社
〒536-0001　大阪市城東区古市1丁目23番20号
TEL(06)6930-5075　FAX(06)6930-5078

工　場
〒536-0017　大阪市城東区新喜多東1丁目8番2号
TEL(06)6968-8111　FAX(06)6968-8805

http://www.otasekizaiten.co.jp/

Q&A

大阪城に本願寺があったって本当？

答え

はい、本当です。

大阪の街のシンボルである大阪城が豊臣秀吉によって建てられたことから、現在の大阪の街の礎を築いたのは秀吉であると、一般的に考えられているようです。一方、今では経済の中心地とされる大阪ですが、遡ること五百年程前には、実に世界有数の宗教都市として栄えたという史実を、はたしてどれだけの人がご存知でしょうか。

秀吉によって大阪城が建てられる以前、その場所には、本願寺を中心とした寺内町と呼ばれる街並が広がっていました。本願寺第八代の蓮如上人が、大坂坊舎を現在の大阪城辺りに建立されたのが始まり（1496年に建立着手）で、「大坂（おおざか）」という地名も、蓮如上人が書かれた御文に現れるのが最初です。

後に御真影が移されて大坂本願寺となると、同寺を中心に商工業に従事する門徒が集まって、一大都市を形成しました。本願寺の寺内町では、税が免除される等の特権が与えられ、自由で開放的な空気が溢れていました。織田信長との石山合戦を経て1580年に退去するまで、今の大阪につながる活動的な街として栄えたのです。現在の大阪の真宗寺院には、この頃に聞法の道場として創建されたものが少なくありません。

（第6組　願光寺　茨田　通俊）

報告

通常院議会　議決事項

去る3月28日（土）、天満別院責任役員会及び通常院議会が開催されました。左記の通り議案の審議が行なわれました。

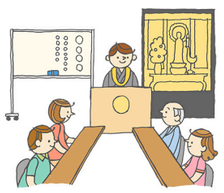
記

・2019年度経常部歳入歳出
　補正予算（案）について
・2019年度事業部歳入歳出
　補正予算（案）について
・2020年度
　教化事業目標・重点的施策
・2020年度経常部歳入歳出
　予算（案）について
・2020年度事業部歳入歳出
　予算（案）について
・財政基盤検討委員会
　答申書について
・その他

以上

全議案、両会とも全会一致で可決承認されましたことをご報告致します。また詳細につきましては、別院にお問い合わせください。

※　会議当日は、普段よりも大きな部屋を使用し、間隔を広げる等の感染症対策には十分に配慮致しました。



答申書を受けて

去る2月末、財政基盤検討委員会から答申書をいただきました。

それを受け、別院としては次の段階へと進み、この困難な状況を脱却していく為の方途をどのようにしていくかを新たな諮問審議会として出発していきたいと思っています。

今後、6月に通常院議会が開かれるにあたって、その席でお諮りする予定であることをお知らせ致します。

中止行事のお知らせ

今月予定されていました左記の行事は、現在の社会情勢を鑑み、中止となりましたことをお知らせ致します。

記

◆合唱団「みのり」（16日、30日）

◆正信偈書写の会（24日）

◆定例法話（24日）

また、別院合唱団「みのり」の練習日についてですが、練習日の振替等については未定であり、決まり次第、当別院ホームページ、もしくは機関紙「六字城」にて掲載致しますので、何卒よろしくお願いします。

輪番雑感

「人身受け難し」ーかけがえのない私へー

輪番　武宮　信勝

緊急事態宣言の中、今や新型コロナウイルス感染者は、世界で286万6千人を超え、亡くなった方も20万人以上（4月25日現在）にのぼっている。世界を揺るがす未曽有の災禍といえましょう。亡くなった方に合掌のもと心より哀悼の意を表しますとともに、感染と真向かいになっている数多の人々と、それを支えておられる医師・医療関係者・家族の方々にエールをおくります。福岡市内では、病院関係者の方々へ仕事中のビルの中から全員が励ましの拍手。思わず涙が込み上げてきました。又東京では午後7時に駅の大型時計がチャイムを鳴らしエールを送り始めたと報道された。患者をはじめ治療に奮闘している方々へ大きな応援になっている。人の温もりを感ぜずにはおられない。

朝日新聞、上之山玲子（パブリックエディター）は、「店や施設への休業要請をめぐり、『いま大事なことは感染予防』と考える人と『収入が途絶え明日から食べていけない』と切実な訴えがぶつかりあう。いのちと暮らし、安全と経済。大切なことが天秤にかけられるような重い問いがつきつけられています。」と指摘しています。

終息の先が見えぬ中、不要不急の外出禁止・休業要請が更に進むのではと懸念される。しかしながら、この感染拡大がもたらした諸問題が「縁」となって、何か見えてないことが見え、聴こえていなかったことが聞こえてきたことがあるのではないか。

その一つとして、「いのち」の問題ではなかろうかと思う。あなたの「いのち」はあなた自身が守ってくださいというような触れ込みがなされた。人となりて生まれてきた私。かけがえのない「いのち」に対し仏教は「人身受け難し、いますでに受く。仏法聞き難し、いますでに聞く。この身今生において度せずんば、さらにいずれの生においてかこの見を度せん。大衆もろともに至心に三宝に帰依し奉るべし。」と深く仏（阿弥陀仏）・法（教え）・僧（仲間）に依りかかって生きましょうと私たち一人ひとりに呼びかけてくださっておられます。経済至上主義・人道主義（ヒューマニズム）の推移した中、コロナがこの時代に何を問いかけたのかと目を凝らすと、いま、転換点にたっているのではないかとひしひしと感じる。このことは決して私一人の判断ではなく、「どこまでも見えてない、聞こえてない私の眼をひらいて私を招喚してくださっておられる阿弥陀仏のはたらきであります」と如来聖人（親鸞聖人）は仰せになっておられます。

共々に三法に帰依し、大地に根差した歩みを始めてまいりましょう。そして今の今迄依りどころにしてきた五欲（食欲・睡眠欲・財欲・名欲・色欲）に振り回されない生き方を見つけていこうではありませんか。誰に代わることもなく、代わってあげることのできない受け難く、かけがえのない「いのち」をたまわってきた、一度限りの人生なればこそですね。

※　度（ど）せずんば→救われることがなければという意味。